



N区 石の堆積状況を調べています

石の検出作業の様子

小牧山の木々も葉を落とし、すっかり冬仕度がととのいました。日に日に厳しくなる寒さにも負けず、連日調査が続けられています。

主郭の北東調査区（N区）では、地表面の堆積土を取り除き、次々と現れた大量の石の検出作業に追われています。これらの石は、石垣の表石や裏込石、あるいはそれらが崩落して積み重なった状況

であると推定されます。

これらの石1つ1つを丁寧に観察し、元位置を保っていて動かしてはいけない石か、転落していて、取り外してその奥を確認すべきかを慎重に判断して見極めなくてはなりません。石を触る手が震えるのは、寒さだけではないときもあるのです…。



～「小牧越」（こまきごし）に向けて～

信長の小牧山城築城450年を記念した本年もいよいよ終盤となりました。さまざまなイベントを通じて小牧山城や石垣の価値を多くの方に知っていただくことができ、うれしく思っています。

ところで、信長が小牧山城を本拠地とした期間は4年間。永禄10年（1567）に信長が小牧から稲葉山城（岐阜城）へ移転する、いわゆる「小牧越」まで信長はこの小牧山城で過ごしました。

今からおよそ3年後の平成29年（2017）の「小牧越」450年までの間、戦国時代の小牧山城を往き来した信長をはじめとする多くの武将たちに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

